

年頭所感



常任理事 小菅 佳克

(株式会社日立ビルシステム 取締役 Senior Director)

新年明けましておめでとうございます。

令和8年の幕開けにあたり、皆さまのご健勝とご多幸を心よりお祈り申し上げるとともに、一言ご挨拶を申し上げます。

本年は、国内外で数多くの注目すべきイベントが予定されており、社会全体が活気に満ちた一年となることが期待されます。特に、イタリア・ミラノ／コルティナ・ダンペツォで開催される冬季オリンピックや、アメリカ／カナダ／メキシコの3カ国で開催されるFIFAワールドカップなど国際的なスポーツイベントも多く、グローバルな視点での交流と連携が求められる年でもあります。

こういった明るい話題の一方で、昨今は社会のデジタル化が進む中、サイバー犯罪や特殊詐欺、侵入犯罪の巧妙化といった新たな脅威も顕在化しています。具体的には令和3年の国内における犯罪認知件数が56.8万件（警察庁統計書より）であったのに対し、令和6年は73.7万件と、約1.3倍に増加しています。この対策として各自治体は監視カメラの増設や補助制度の導入を積極的に進めています。これは、地域防犯のあり方が大きく変わっていることを示しており、企業としても地域社会との連携を強化する必要性が高まっています。社員の出勤・退勤時の安全確保、施設のセキュリティ強化、地域の防犯パトロールや情報共有への協力など、企業が果たすべき役割は多岐にわたります。

また、昨年は国内外で複数の企業がサイバー攻撃を受け、業務停止や顧客情報の流出といった深刻な事態に陥りました。これらは決して他人事ではなく、私たち自身が常に「備える姿勢」を持つことが重要です。

こうした状況を踏まえ、本年は「安全・安心の再構築」が重要なテーマの一つとなると考えられます。AIやIoTを活用した予測型防犯システム、地域コミュニティとの連携強化、教育・啓発活動の充実など、テクノロジーと人の力を融合させた防犯対策が求められています。

当協会におきましても、こうした環境下でのセキュリティ対策・防犯対策に寄与する取り組みがより一層期待されるものと考えます。協会としましても引き続き「安全・安心な社会の実現」に向けた活動をしてまいりますので、皆さまのご支援ご協力を賜りますよう、何卒よろしくお願い申し上げます。

未来を創るイベントに胸を躍らせながらも、足元の安全をしっかりと見つめ直す一年にしてまいりましょう。

本年もどうぞよろしくお願い申し上げます。